

東京湾

小型漁船漁業【小型底びき網漁業等】(雇用型・独立型)

漁業の概要

東京湾は海底が砂泥質で、「江戸前」のアサリやホンビノスガイなどの貝類、カレイ類、コノシロ、スズキなどの魚類、エビ類、ナマコなど、多種多様な生物が生息し、それらを対象とする小型底びき網漁業、刺網漁業、潜水器漁業、採貝漁業の小型漁船漁業が営まれています。

漁業権漁業として採貝漁業の漁業者が多いですが、近年は青潮やカイヤドリウミグモの被害等でアサリ資源が低迷している中で、船橋や市川地区ではホンビノスガイをブランド化して積極的に売り出しています。

小型底びき網漁業では、過度の競争を抑えて資源を保護するため、漁業者が協議会を組織し、自主的な操業ルールを定めています。

対象魚種	①小型底びき網漁業:スズキ、カレイ類、ナマコ、貝類、コウイカなど ②採貝漁業・潜水器漁業:主に貝類、ナマコ ③刺網漁業:スズキ、カレイ類など
漁船の規模	①採貝漁業:1～3トンの船外機船 ②それ以外:5～10トンの船内機船
乗組員数	1～2人
年間労働日数 (小型底びき網の例)	海上120～160日、陸上50～100日
技術習得期間	3年程度



小型底びき網漁業の操業

漁業収入モデル(独立時)

水揚げ収入	2,000万円
経費	1,100万円
漁業所得	900万円

小型底びき網漁業(2人乗り)の場合

※上記は漁業者からの聞き取りを基にした一例であり、年、資源状況、習熟度等によって大きく変動します。

年間操業計画例(小型底びき網)

対象魚種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
スズキ、アナゴ、エビ類						←						
コウイカ										←		
ナマコ	←											
貝類	←											

1日の操業スケジュール例(小型底びき網)

▼日中操業の場合

4:30	出港
5:00～14:00	操業
14:30～15:00	帰港・水揚げ作業
～17:00	翌日の準備等

▼夜間操業の場合

14:00～16:00	操業の準備等
16:30	出港
17:00～3:00	操業
3:30～4:00	帰港・水揚げ作業

就業と漁労作業(小型底びき網)

就業については、既存の漁業者に乗組員として雇用されることになります。

操業時間は対象魚種によって異なります。漁労作業は、漁場に着くと、桁網を海中に投入し、海底に漁具が着底した後、曳網します。30分～1時間ほど曳網した後に、桁網を後部デッキに引き揚げます。乗組員が網から水揚げした魚などを選別し、船長が次の漁場まで操船し、再び桁網を投入して曳網します。